キラリ山形発 元気なモノ作り（2）

山形デザインコンペティション実行委員会（県、山形商工会議所連合会などで構成）は、魅力的で競争力の強い商品づくりとデザインマインドの向上を目指す「山形エクセレントデザイン」事業を展開。山形県内で企画・開発、生産されている家庭・業務・公共用品の3分野を対象に優れたデザイン製品を選定・顕彰しています。山形商工会議所は「キラリ山形発 元気なモノ作り」シリーズ第2弾として、管内でエクセレントデザインに選ばれた事業所を紹介しています。今月号は照明器具のトップメーカー、オーデリック（株）。

オーデリック（株）

1951（昭和26）年設立。照明器具総合メーカー。資本金31億550万円。伊藤雅人代表取締役社長。本社・東京都杉並区宮前。東根市に山形工場。山形市流通センターに山形営業所。2003年に馬見ケ崎の遊歩道照明でエクセレントデザイン賞。06年ペンダント照明、09年にLED照明灯でそれぞれ同奨励賞を受賞。

「あかり」を通じて社会貢献 照明器具のトップメーカー

山形県立博物館2階展示場。県内外から多くの人が訪れている。お目当ては舟形町・西ノ前遺跡から出土した日本最大の縄文土偶である国宝「縄文の女神」。有機EL照明がビーナスを優しく照らす。古代山形の国宝の輝きを、山形発の現代最先端の技術が演出する。見事なコラボレーション。照明は、山形に主力工場を持つオーデリック社の製品だ。

同社と山形との機縁は、伊藤雅人社長の父和夫氏（故人）の少年時代にさかのぼる。和夫氏は戦前、樺太（現サハリン）の王子製紙恵須取工場に勤めていた父親の急死に伴い母親、兄弟4人と母親の実家がある山形市に引き揚げて来た。第八尋常高等小学校（現市立七小）から山形中学（現県立山形東高）に入学。3年の時に陸軍士官学校予科に進んだ。山形に住んでいたのはわずか6年ほどだったが友人も多かった。

陸軍師範学校で終戦を迎え、廃墟と混乱の中、東京都三鷹市で叔父の大山幸一郎氏が立ち上げた大山金属製作所社員となった。バラック建ての10坪ほどの工場で田圃の害虫除けの蛍光ランプを作り始めた。当時、国内で最も緊急かつ重要な課題は食糧と石炭の増産だった。コメの増産には害虫退治が不可欠。GHQ（連合軍総司令部）から奨励され、日本で最初の「誘蛾（が）灯」を量産、販売した。

昭和30年代半ばには、白熱照明灯器具の製造を開始。照明灯の多様化に対応し街路灯、グローランプなど幅広い分野に進出した。一時は、過剰生産に加え、外国製品の輸入増、国の金融引き締め政策により経営危機に陥ったが、少量多品種路線に方針を転換し乗り切った。そして1976（昭和51）年、当時の板垣清一郎知事の求めに応じ、東根市の大森工場団地に工場を進出した。

「落成式の夜、山形中学の同級生が発起人となって励ます会を開いてくれた。戦後、裸一貫から身を起こした自分にとって忘れられない夜であり、故郷に錦を飾ったという思いだった」と述懐している。

時代は生活に高級感、豊かさを求めていた。照明も同様で同社は、木枠を用いた住宅用和風照明器具「光源氏」シリーズを発表。さらに、総合照明メーカーへの飛躍をめざし中国市場に進出した。1993（平成5）年、上海で開催された第1回東アジア競技大会開会式の照明演出を担当。その実績が評価されて上海タワーのライトアップ、中国人民大会堂の全面改修に伴う照明器具受注に成功した。そうして創業50周年の節目の年の1996年に社名を「オーヤマ照明（株）」から現在の「オーデリック（株）」と改めた。

そして今―。

「何より大切なことは、時代に敏感であること。お客様が求めるものをいち早く提案していくこと」「地球温暖化防止に向けた照明による省エネ、高齢化社会への対応やセキュリティに応えること」「生活をより豊かに、快適にするあかりを提供すること」と伊藤社長は強調する。

デザインはその重要な要素だ。機能性、安全性、操作性、省エネに加え、歴史や文化、特性、目的、立地景観とのマッチング。そのために、デザイナーは自ら現場（市場）に出掛けてマーケティング活動する。全国の営業拠点から上がってくる現場ニーズを基に意見を交換する。手描きのスケッチから始め、3DCG（3次元コンピューターグラフィックス）でシミュレーション、製品化に結び付けている。

2003年にエクセレントデザイン賞を受賞した「馬見ケ崎遊歩道照明」は「現代の灯篭」がテーマ。山形らしさと馬見ケ崎川に由来を持つ山形鋳物を使いデザイン、空間にやすらぎと潤いを演出し続けている。2009年、奨励賞を受けたLEDソーラー照明灯は、省エネ環境循環型の街路灯。軽量化・組み立て式。光源部をLED化することによって十分な明かりを確保し、耐用年数も延びるため、管理しにくい山間部への設置を配慮した。

蔵王みはらしの丘のソーラー照明灯、山形市大手門通りの防犯灯、水の町屋七日町御殿堰のフットライト、JR山形駅前ターミナル・七日町ほっとなる広場の街路灯等々。

同社の「あかり」は社会の隅々を明るく照らし続けている。

山形の宝「縄文のビーナス」を優しく照らす有機EL照明（山形県立博物館）

蔵王みはらしの丘のソーラー照明灯は軽量化、組み立て式。光源部はLED

山形市大手門通りの街路灯。おしゃれなデザインで街の安全を守っている。

エクセレントデザイン賞を受賞した山形鋳物とのコラボ、遊歩道照明

何より大切なことは時代に敏感であること、そして生活を豊かに、快適にする「あかり」を提供すること